

西アフリカのコートジボワールでは、かつて国土の6割を占めていた森林が、開発や過剰な商業伐採、違法伐採などにより急速に減少し、2010年には、国土の約3割までに減少しました。その上、2002年、内戦が国家を二分する状況の下で、多数の国内避難民が森林地域へ侵入し、燃料用等に多くの木々を伐採したことから、森林の荒廃がさらに進みました。

このため日本は、コートジボワールにおいて活動実績のある国際熱帯木材機関(ITTO)^{※1}と協力して、森林の再生に取り組んでいます。この事業には、樹木と農作物を同時に植栽するアグロフォレストリー方式を導入しています。伐採後の荒廃した土地に苗木とともに芋や野菜などを植え、樹木を育成している間も農作物の収穫を通じて地域住民の生計向上を図るというものです。同時に住民参加の苗木生産を行うことで技術の向上を図り、持続可能な森林経営に関して能力強化を支援します。

この事業の実施により、東京ドーム430個分に当たる約2,000ヘクタールの荒廃した森林の修復と再生を目指します。また、同国内の約14万ヘクタールの森林の保全に努め、これ以上の荒廃を抑制します。ほかに、森林修復、再生のための技術や経験が同国の環境・水・森林省や森林開発庁に蓄積されるので、荒廃した森林対策と持続可能な森林経営が全国的に展開されることが期待されています。(2014年8月時点)



荒廃した森林の様子(住民による現地確認)(写真:ITTO)

※1 ITTO:International Tropical Timber Organization